

Research

2025. 特集号

特集 授業デザインを アップデートする取り組み

- ・ 皆川雅樹の授業探訪⑧
問いや仮説を「自分事」につなげる〈公共〉の授業 2
- ・ 国際収支を考えさせるための問い 8
- ・ 皆川雅樹の授業探訪⑨
静かなる教室，能動的な〈歴史総合〉の授業 10
- ・ 教科書 Research 供給教科書の変更点 16



清水書院



本社 〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-6

営業部 TEL 03-5213-7151 FAX 03-5213-7160

編集部 TEL 03-5213-7155 ~ 6

大阪支社／札幌営業所／九州出張所

URL <https://www.shimizushoin.co.jp>

問いや仮説を「自分事」につなげる〈公共〉の授業

～授業という公共空間へいざなう～

訪問先：青稜中学校・高等学校（東京・私立） ※2023年11月，2024年11月に取材

取材した授業：公共

担当教員：森山岳美 先生（教員24年目）

◆取材者プロフィール

皆川 雅樹（みながわ まさき）

産業能率大学経営学部教授。博士（歴史学）。専修大学・上智大学兼任講師（教職課程）。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭（地理歴史科）。主な著書は、『日本古代王権と唐物交易』（単著，吉川弘文館），『アクティブラーニングに導く KP 法実践』（川嶋直との共編著，みくに出版），『歴史教育「再」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著，清水書院），『持続可能な学びのデザイン』（編著，清水書院），『失敗と越境の歴史教育』（宮崎亮太との共編著，清水書院），『「唐物」とは何か』（河添房江との共編著，勉誠出版），『歴史総合の授業と評価』（金子勇太・梨子田喬との共編著，清水書院），『歴史教育「シン」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著，清水書院）など。

@ご感想・ご意見などは右記メールアドレスをお願いします。 MINAGAWA_Masaki@hj.sanno.ac.jp

0. 授業探訪の目的と目標

8回目の授業探訪。今回は〈公共〉の授業を探訪した。

＜授業探訪の目的＞

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

＜授業探訪の目標＞

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

※第1～4回の取材内容と授業者からのリプライは，2021年7月に刊行した皆川雅樹編『持続可能な学びのデザイナー—公共・歴史総合への架け橋 高校「社会科」授業実践—』（清水書院）に収録。ぜひ一読ください。

1. 今回の授業探訪先

第8回目の授業訪問先は，東京都品川区にある青稜中学校・高等学校の森山岳美先生（【写真①】）の1年生の〈公共〉の授業である。〈公共〉は，高校1年生の授業科目（必修）として設定されている。



【写真①】〈公共〉を担当する森山先生

なお，同校の2024年度の地歴・公民科目の内訳は，次の通りである。

＜2024 年度入学生＞

高校1年：

- *地理総合（2単位）
- *歴史総合（2単位）
- *公共（2単位）

高校2年：

【共通】

- *倫理（2単位）

【文系】

- *地理探究・世界史探究・日本史探究から1科目選択（5単位）

高校3年：

【文系】

- *地理探究・世界史探究・日本史探究・政治経済から1科目選択（6単位）
- *地理演習・世界史演習・日本史演習・倫理・政治経済演習などから1科目選択（3単位）

【理系】

- *地理演習・政治経済・倫理から1科目選択（4単位）

③今日の民主主義の姿と危うさとは？—ポピュリズムがもたらす危機，といったテーマをそれぞれ扱う流れが用意されていた。

テーマごとの内容は，次の通りである。

- ①：民主主義の起源について，古代ギリシアの民主主義や政治体制（君主制・王政，貴族制・民主制）について学ぶ。
- ②：問い作りについて，その意味やステップをふまえたうえで，実際に問い作りやそれに対する仮説立てを個人ワーク・グループワークで行う。
- ③：現代の民主主義・民主政治の在り方について基本事項を学びつつ，第50回衆議院議員総選挙やアメリカ大統領選挙に関わるメディア発信を交えながら，ポピュリズム的な政治の台頭の是非などを考える。

以上のような内容で展開していく中で，今回の取材では②のテーマを扱う授業内容となっていた。

ちなみに，本単元を通じた教員からの問いの焦点として，「民主主義は最悪の政治形態らしい。これまでに試されたすべての形態を別にすれば，の話であるが。（It has been said that democracy is the worst form of government except all the others that have been tried.）」というイギリス元首相のウィストン・チャーチルの言葉（以下，「チャーチルの言葉」と記す）を用意して，生徒たちに提示していた。本単元は，チャーチルの言葉の本質を考えつつ，「民主主義」について考え抜く（考え続ける）授業となっている。

2023年11月および2024年11月に，森山先生が担当する〈公共〉の授業（2コマ2クラス）を見学させていただいた。以下，2024年度の授業を中心に紹介する。さらに，最後に，1年経っての授業方針や方法などの変化について整理してみたい。

2. 「民主主義」を問う授業

今回取材した授業で扱っていたテーマは，「民主主義」である。教科書では，「公共空間の基本原則」の単元で扱うことができるテーマである。取材を行った2024年11月初旬は，第50回衆議院議員総選挙やアメリカ大統領選挙が終了したばかりであった。時宜を得たタイミングで，森山先生は「民主主義」を問い直す授業（以下，「本単元」と記す）を行っていた。本単元を3コマに分け，①民主主義（デモクラシー）はどう変化した？—起源としての民主主義とその課題，②民主主義は最悪の政治体制なのか？—「問い作り」のスキルを使って考える，

3. 「問い」作り，そして「仮説」の共有

1コマ45分間の構成は，おおよそ次のようになっていた。

- ①本日の授業についての説明（約5分）
- ②問いをグループ内で共有し整理（約10分）
- ③各グループが選んだ問いの説明（約10分）
- ④アメリカ大統領選についての講義（約3分）
- ⑤グループ内で問いに対する仮説立て（約10分）
- ⑥各グループが仮説を発表（約7分）

① 本日の授業についての説明 (約5分)

最初に、本時は生徒によるグループワークメインで授業を展開するため、いつもとは違う教室である理科室を使用すること、また、前回の授業で説明されたこれからの時代に必要なスキルである問う力(問い作り)について、それぞれ森山先生から説明があった。なお、グループは、1グループ4～5名であらかじめ構成されていた(【写真②】)。



【写真②】授業の風景(理科室を利用)

② 問いをグループ内で共有し整理 (約10分)

前回の授業時に、宿題(個人ワーク)として出されていた問い作りのシート(【資料1】)の内容を共有するところから、グループワークが始まった。ち

なみに、問い作りの焦点(基点)は、先述のチャートの言葉である。

グループ内で共有したうえで、メンバー全員の問

【資料1】問い作りシート①

授業プリント#8 学びのスキル

問い作りのスキルを学ぼう



Q「問い作り」って何だろう！?
A自分だけの「気になる」を見つけること
→ただ答えを知るだけではなく、自分で問いを持つと、それが自分ごとにも感じられます。
答えを探したり、考えたりすることで、自分だけの視点が広がっていきます。

問い作りのステップ

Step1 問いの種類を理解しよう

「閉じた問い (Closed Question)」 →簡単な単語(用語)やYes/Noで解答することができる問い (例) あなたは大学進学を目指していますか? 文理どちらを希望しますか?	「開いた問い (Open Question)」 →様々な解答や説明が必要となる解答が必要となる問い (例) あなたはなぜ、大学進学を目指しているのですか? 文系を専攻する理由は何ですか?
--	--

「問い」に良い・悪いはありませんが、「開いた問い」の方が深い思考や課題設定においては重要になることは認識しておきましょう!

Step2 「閉じた問い」→「開いた問い」へ

閉じた問い+5W1H(なぜ・何・どこ・いつ・誰+どのように) = 開いた問い
★閉じた問いに6つの視点を加えると開いた問いに転換できます。

▼

(例) Closed: 子育ては大変ですか!? → (解答) はい/いいえ

▼

Open

Why: 子育てはなぜ、大変なのでしょう?
What: 子育てのどの部分が特に大変ですか?
Where: どこにいた時に子育ての大変さを感じますか? + Why
When: 子育てで最も大変な時期はいつでしょうか? + Why
Who: 子育てで最も負担を感じているのは誰ですか? + Why
How: どのようにすれば子育ての大変さは軽減されるでしょう?



【写真③】グループワークの様子

回りながら、「決め方はみなさんに任せます」「理由はみなさんに任せます」「その問いを選んだ理由は？」などと声かけをしていた（【写真③】）。

③ 各グループが選んだ問いの説明（約10分）

生徒たちは、各グループで話し合いを行い、自分たちが選んだ問い1つとその理由を、A3用紙1枚にマジックを使って記入し、前の黒板に貼っていく。森山先生から「いつもと違ってアナログな発表方法で新鮮でしょ」といった言葉もあった。

各グループの代表が、選んだ問いについての説明とその理由を発表した。「民主主義がなぜ最悪なのか？」「政治経済において最悪（最低）と最善（最高）

いから1つ選択して、それを選択した理由を考えて整理することが森山先生からの指示である。

グループワーク中、森山先生は教室内をぐるぐる

「問い作り」をしよう 以下の言葉から問いを形成しよう！！



民主主義は最悪の政治形態らしい。これまでに試されたすべての形態を別にすれば、の話であるが。
(ウィストン・チャーチル)

以下に問いを作って、チェックボックスに開いた問いには1、閉じた問いには2をそれぞれ記入します。質問作りが終わったら、自分が重要だと思う問いを3つ選んでおきましょう。

☐ _____
☐ _____
☐ _____
☐ _____
☐ _____
☐ _____
☐ _____

友達の問いで「これは良いな」と思うものがあったらメモしておこう

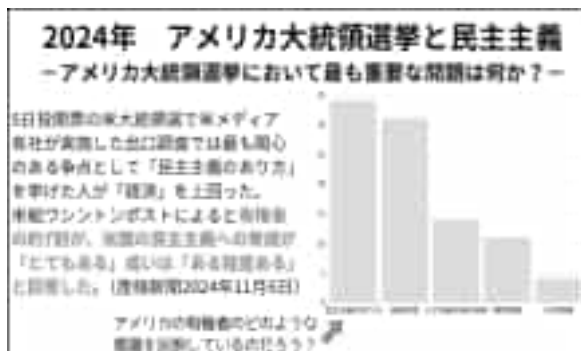
☐ _____
☐ _____
☐ _____

【資料1】問い作りシート②

の基準とは何か?」「最悪（最低）と最善（最高）の状態はあるのか?」「民主主義により誰が得をするのか?」などといった問いがあげられた。

④ アメリカ大統領選についての講義（約3分）

ここで、森山先生からアメリカ大統領選挙と民主主義との関係について小講義を行った。直近の米大統領選での関心事の1つとして「民主主義の在り方」があげられており、アメリカの有権者たちも民主主義の意味に対する意識が高いことを説明した（【資料2】）。



【資料2】米大統領選挙と民主主義のレクチャースライド

⑤ グループ内で問いに対する仮説立て（約10分）

各グループで選んだ問いについて、自分たち以外の問いをシャッフルして各グループに配付し、その問いの答えについての仮説を各グループ内で考える。グループワーク中、森山先生は教室内をぐるぐる回りながら、「正解はないので自由に答えて」「探究的な仮説なのでこうではないだろうか?」といった形で大丈夫」「結論が出ない場合は話し合いの過程を説明してくれば大丈夫」などと声かけをしていた。一方、生徒たちは、これまでに学んだことや経験的に知っていることをあげて話し合ったり、チャートルの言葉に立ち返ってその意味を探り直すような対話を行ったりしていた。

⑥ 各グループが仮説を発表（約7分）

各グループの代表が、あてがわれた問いについての仮説とその具体的な理由について発表した。全グループが発表した後、最後に森山先生が、今回は今回あげられた問いをふまえて、民主主義・民主政治

のしくみの話につなげていくことを予告して授業が終了した。

4. 授業の特徴

本授業の特徴として、直近の時事問題について、問い作りを媒介として公共の授業内容につなげていることがあげられる。

取材校の〈公共〉の授業の基本目標として、「物事を様々な視点から見て、選択する、判断する力の素地をつける」ことが設定されている。そして、「生徒が自分の決定で行動し、人生を選択できるようなスキルを含む内容としていきたい」「自分だけでなく、公共空間の中で社会全体が安定し、誰もが自己決定できる社会のために様々な社会問題をできる限り自分事化して捉える」といったことにつなげていくことを目指している。生徒のキャリアにつながるスキルや社会問題を自分事化していく手段の1つとして、「問い作り」が選ばれていることが想定できる。それは、森山先生が授業を進めていくうえで意識している「細かな制度説明よりも、基礎事項を押さえながらできる限り、生徒にとって身近なケースを扱い、〈公共〉という科目を自分事として学ぶ意識を持つ」といったことにもつながる。

今回紹介した授業では、民主主義という〈公共〉という科目（公共の扉）で扱う大切な概念の1つであり、現代的にも注目される社会問題を扱っていた。民主主義が蔑ろになれば、自分たちにも影響を及ぼす可能性があることは生徒たちも何となくわかっているが、民主主義の本質は何かを、問い作りを通して考えることで、自分事化につなげていくといったきっかけであろう。

5. 授業デザインの特徴

今回紹介した授業では、生徒によるグループワークがメインとなる回であった。森山先生は、「なるべく意見共有をする時間を入れて、クラスという公共空間の中における多様な意見や相違を視覚化でき

るようにしたい」と言う。そのため、教員によるレクチャーメインの回と生徒によるグループワークメインの回を意図的に分けているようである。

2023年度に見学した授業では、レクチャーとグループワークを1コマの中で同程度の時間を使っていた。教員から伝えること、生徒同士が意見共有すること、どちらもある程度の時間を要する。45分という1コマの授業時間で、どちらも充実させることは至難の業である。そのため、2024年度の授業では、生徒たちの様子や学期ごとの生徒による授業アンケートの結果などをふまえて、1コマ1コマの位置づけを大事にしていく方向性にシフトしたようである。

授業デザインを考える際に、時間軸（1コマベース、単元ベース、年間ベースなど）と空間軸（教員によるレクチャー、個人ワーク、グループワーク、教員による個人・グループの意見へのコメント・フィードバック、通常教室での授業、普段とは別の教室での授業など）を意識する必要がある。目の前の生徒をじっくりと観察しながら、両軸を調整していく必要性を、今回の授業の取材を通じて改めて感じた。

6. 授業の「価値」～1年を通じた変化～

森山先生は、ICT（Padlet, Mentimeter, Slido, Canva, Google Form, テキストマイニング作成など）を活用した生徒同士の意見共有を積極的に行っている。しかし、ICTを利用した情報共有に偏ると、情報の流しっぱなしになったり、入力して終わりになったり、生徒間の直接的なコミュニケーションが不足したりする、といったことを問題視しているようだ。そのため、アナログな方法でのグループワークや個人ワークを模索しているという。

ICTを活用した授業は、生徒同士の意見共有をするという点では漏れなく確認できるが、様々な考えを確認して満足してしまったり、情報過多になってしまって読まなかったりしてしまう。そうすると、生徒たちは出した意見をさらに追求・追究するような活動に取り組むことが難しくなる。今回取材した

授業のように、個人で考えてきた意見をグループ内で共有して、様々な意見をベースにグループで問い作りをして、さらにその問いに対して仮説を立てるといった活動は、グループ単位ではあるが、出した意見をさらに追求・追究につなげるしかけとなっていた。

森山先生は、〈公共〉の授業を「探究」的な学びにつなげていきたいと、2024年度の授業取材後のインタビューで述べていた。グループベースで作成した問いや仮説を個人レベルの活動にいかにつなげていくか。社会問題への思考や〈公共〉で学ぶ内容をいかに「自分事化」していくのか。限られた時間数の中で、入試も意識しながら、オープンな問いを生徒に提示しつつ、生徒たちによる深い思考や問い作りがうながせるような授業を、さらに試行錯誤したいという強い想いが伝わってきた取材であった。

読者のみなさまは、学びを「自分事化」する意味をどのように考えますか？

◆訪問先データ

青稜中学校・高等学校（私立・共学校）

〒142-8550 東京都品川区二葉1丁目6番6号

HP : <https://www.seiryo-js.ed.jp/>



国際収支を考えさせるための問い

(本稿の問いは編集部原案、解答・解説は経済分野執筆陣とのメールによるやりとりからまとめた。)

「公共」や「政治・経済」の経済分野の学習を進めていくと、国際経済の必須項目として、国際収支表についての学習があります。国際経済は「公共」の学習の中でも、「政治・経済」の学習の中でも、1年間の授業の後半になってから学ぶ項目でもあり、大まかな枠組みを学習しておしまいになることも多い項目かもしれません。

少しでも身近に感じてほしいと思い、編集部では興味づけのための問いをいくつか考えてみました。以下の解説については、ぜひ、教科書の国際収支表のページをご覧ください。一緒に考えてみてください。

Q 1

MLB で大活躍の大谷翔平選手。彼の稼いだ収入は国際収支表のどの項目に当てはまると考えますか？

大谷翔平選手の所得が国際収支表の何に当たるか、少し考えてみましょう。

大谷選手はアメリカ国内でアメリカの球団に雇用されていますので、日本に経済的な拠点のない「非居住者」に当たります。ここで重要なのは、国際収支が、「居住者」と「非居住者」の間での取り引きを記録するものである、ということです。

「居住者」は自国内に経済活動の拠点がある者で、「非居住者」は外国に経済活動の拠点がある者のことです。この場合、国籍は関係ありません。

大谷選手は、基本的にアメリカの球団と契約して活躍しています。つまり、活動の拠点がアメリカにありますので、彼は「非居住者」となり、アメリカ国内で収入を得てアメリカ国内で経済活動をしていることになります。日本になんらかの金銭的な移送を行っていない限り、国際収支の記録としては全く関係なく、どの項目にも当てはまりません。

ただし、もし稼いだお金を日本へ送金していた場合は、所得移転となりますので、「第二次所得収支」に当たることになるでしょう。

派生的に追加で考えてみたいこと。

Q 1_sub-Q

今年（2025 年に）MLB に移籍した元ジャイアンツの菅野智之投手の場合、彼の所得も大谷選手と同様に非居住者の扱いとなり、国際収支には関係のないものとなるでしょうか？

ここで考えたいのは、菅野選手が「非居住者」に当たるかどうかの判定基準です。

日本銀行の「国際収支関連統計（IMF 国際収支マニュアル第6版ベース）」の解説によれば、居住性の概念は先にも述べた通り「国籍や法的な判断基準ではなく、取引当事者の『主たる経済利益の中心』が基礎となります。『ある国に拠点を持ち、長期間にわたって相当規模の経済活動を行う者をその国の居住者として扱うこととしており、基本的には『1年以上所在しまたは所在する意図があること』を基準としています。菅野選手はまだ MLB での活動も1年経っていないので、その点からは日本の「居住者」とも考えられます。しかし、国際収支統計では主として外為法に基づく諸報告を基礎資料として作成しています。居住者、非居住者の定義については、外為法に規定があり、さらに大蔵省通達にも規定があります。それによれば、「外国にある事務所に勤務する者や、2年以上外国に滞在する者またはその目的で出国した者等」とあり、菅野選手が MLB と契約して活動する時点で、「外国にある事務所に勤務する者」となり、非居住者である彼の所得は大谷選手同様、国際収支には関係なくなります。
(<https://www.boj.or.jp/statistics/outline/exp/exbpsm6.htm>)

Q 2

コロナ収束後、日本を訪れる外国人観光客が増加しています。彼らが旅行中に使ったお金は、国際収支表のどの項目に当てはまると考えますか？

日本を訪れる外国人観光客は、前記の「居住者」と「非居住者」の区分で考えれば、「非居住者」として観光を楽しんでいることになります。円安で日

本への旅行はお得感のある今、日本全国のさまざまな観光地で宿泊し、おもてなしを体験し、お土産をたくさん買って、「非居住者」として「居住者」への経済的取り引きを多く担ってくれています。この活動は国際収支表でいえば「貿易・サービス収支」のうちの「サービス収支」に当てはまります（サービス収支上の定義：旅行 訪日外国人旅行者・日本人海外旅行者の宿泊費、飲食費等の受取・支払）。円高の時期には、海外旅行に出かける日本人が多く、海外でたくさんのお金を使っていたので、サービス収支のうちの旅行の項目としては赤字となっていました。現在は日本を訪れる外国人の数が増え、黒字傾向となっています。

Q 3

日本で大きな災害が発生したとしましょう。海外からの救援物資が届いたとして、それは国際収支表のどの項目に当てはまると考えますか？

海外から物資が届いた事実自体は、貿易・サービス収支（のうちの「貿易収支」）の「輸入」が計上されます。通常の輸入の場合は、その代金の支払いが発生しますので、金融収支にも赤字が計上されます。モノの移動とお金の移動が記録されるわけです。

一方で、海外から届いた物資が支援物資である場合は、対価が伴わないものですから、代金が支払われず、お金の移動がなく、第二次所得収支として、その受取が計上されることになります。

結果として、支援物資が入ってきた場合には経常収支（貿易・サービス収支）には影響しない（輸入なら、経常収支が赤字になる）ことになります。

さて、大谷選手の話に戻って、最後に考えてみましょう。

Q 4

大谷選手が「野球やろうぜ！」と日本中の小学校にグローブを寄贈しましたね。この費用は、国際収支表のどの項目に当てはまると考えますか？

大谷選手が「非居住者」であることは先に示した通りです。それを前提にしたとして、国際収支に及ぼす影響を見るためには、大谷選手がどのようにしてグローブの代金を支払い、どこを通じて送付した

のかについての情報が不可欠です。

Q 3で示された対価を伴わない物資の移動（寄贈）と考えれば、「非居住者」である大谷選手からの、対価を伴わない送金（寄付・寄贈）で、第二次所得収支に当てはまるでしょう。

しかし、もう少し突っ込んで考えてみれば、大谷選手がどこで保有しているお金で支払ったのか、グローブの業者が日本国内の業者なのかアメリカの業者なのかも、情報として知る必要があります。

実際の寄贈グローブは、日本の企業であるニューバランスジャパンが、自社の小学生用（低学年用）ジュニアグローブを準備して、全国約 20,000 校の小学校に 3 個ずつ寄贈したそうです（合計約 60,000 個）。大谷選手はニューバランスの契約選手であり、「未来を担う子どもたちに、野球の楽しさを知ってほしい」という想いから寄贈を申し出たところ、企業が賛同してサポートした、という経緯がウェブサイトなどで紹介されています。

ニューバランスジャパンの契約選手として契約金の一部をこの費用に使ったと考えると、「非居住者」である大谷選手とスポンサー契約をした時点で、日本から見て「サービスの輸入」が計上されます。その上で、大谷選手が日本の学校に寄贈したとすれば、移転所得として「第二次所得収支」の受取が記録されることになるでしょう。また、スポンサー料を減額することで（大谷選手には支払わないで）ニューバランスジャパンが直接寄贈したのであれば、国際収支には影響ないとしてもよいですが、その場合も、潜在的にはサービスの輸入が減ったことにはなるでしょう。いずれにせよ、大谷選手がグローブの寄贈を決めたことで、寄贈しないことよりは、経常収支は黒字化するのではないかと考えられます。

日々のニュースや出来事などを、学校の授業で学習した項目に照らして考えてみることは、その学習を自分ごとに落とし込むことにつながると考えます。さまざまな視点から考えを深める活動の一つとして、こうした問いと、情報の集約、学習内容に基づいた分析を主体的にできるようになってほしい、本稿がそのための一助となれば幸いです。

静かなる教室，能動的な〈歴史総合〉の授業

～反転授業も観点別評価も ICT で「かんたん」実践～

訪問先：昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 ※ 2023 年 11 月，2024 年 11 月に取材

取材した授業：歴史総合

担当教員：勝間田秀紀先生（教員 17 年目）

◆取材者プロフィール

皆川 雅樹（みながわ まさき）

産業能率大学経営学部教授。博士（歴史学）。専修大学・上智大学兼任講師（教職課程）。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭（地理歴史科）。主な著書は、『日本古代王権と唐物交易』（単著，吉川弘文館），『アクティブラーニングに導く KP 法実践』（川嶋直との共編著，みくに出版），『歴史教育「再」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著，清水書院），『持続可能な学びのデザイン』（編著，清水書院），『失敗と越境の歴史教育』（宮崎亮太との共編著，清水書院），『「唐物」とは何か』（河添房江との共編著，勉誠出版），『歴史総合の授業と評価』（金子勇太・梨子田喬との共編著，清水書院），『歴史教育「シン」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著，清水書院）など。

@ご感想・ご意見などは右記メールアドレスをお願いします。 MINAGAWA_Masaki@hj.sanno.ac.jp

0. 授業探訪の目的と目標

9 回目の授業探訪。今回は〈歴史総合〉の授業を探訪した。

＜授業探訪の目的＞

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

＜授業探訪の目標＞

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

※第 1～4 回の取材内容と授業者からのリプライは，2021 年 7 月に刊行した皆川雅樹編『持続可能な学びのデザインー公共・歴史総合への架け橋 高校「社会科学」授業実践一』（清水書院）に収録。ぜひご一読ください。

1. 今回の授業探訪先

第 9 回目の授業訪問先は，東京都世田谷区にある昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の勝間田秀紀先生（【写真①】）の 1 年生の〈歴史総合〉の授業である¹⁾。〈歴史総合〉は，高校 1 年生の授業科目（必修）として設定されている。



【写真①】〈歴史総合〉を担当する勝間田先生

1 勝間田先生の授業実践については，勝間田秀紀「「観点別評価一体型 ICT ツール」と「反転授業」を用いた歴史総合の指導と評価」（『山川歴史 PRESS 第 18 号 歴史総合』2024 年 2 月号）ですでに紹介されている。併せてご参照いただければと思う。

なお、同校の2024年度の地歴・公民科目の内訳は、次の通りである。

＜2024年度入学生＞

高校1年：

- * 歴史総合（2単位）
- * 公共（2単位）

高校2年：

【本科（文系）】

- * 地理総合（2単位）
- * 世界史探究・日本史探究から1科目選択（3単位）

【本科（理系）】

- * 地理総合（2単位）

【グローバル留学】

- * 地理総合（2単位）
- * 世界史探究（3単位）

【スーパーサイエンス】

- * 地理総合（2単位）

高校3年：

【本科（文系）】

- * 世界史探究・日本史探究から1科目選択（6単位）
- * 地理探究・倫理・政治経済などから1科目選択（3単位）

【グローバル留学】

- * 世界史探究（4単位）
- * 世界史演習（2単位）

※【 】内はコース

2023年11月および2024年11月に、勝間田先生が担当する〈歴史総合〉の授業（2コマ2クラス）を見学させていただいた。以下、2024年度の授業を中心に紹介する。さらに、最後に、1年経っての授業方針や方法などの変化について整理してみたい。

2 一般的な授業では、講義を授業内で実施し、授業後に（宿題として）発展的な課題に取り組む場合が多い。一方、反転授業では、講義を授業前に動画などで受けたうえで、授業内で演習問題や発展的な課題に取り組む。反転授業にすることで、授業時に時間を使いがちな教員によるレクチャー部分が幅を利かさずに済み、授業内の時間を有効に使えるようになるわけである。また、講義動画を作成しておくことで、授業時や

2 反転授業の導入

今回取材した昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校では、ICTを活用した授業を推進している。

- ・生徒は各自1台のパソコン（PC）を保有（Wi-Fi環境あり）
- ・Google Workspace for Education を利用（課題・小テストなどの配信はGoogle Classroom で実施）
- ・電子黒板と教室用PCを全ての教室に設置
- ・教員はiPadを使用（黒板への投影はAppleTVを使用し、ワイヤレスで投影ができ機器を持ったままの机間巡視が可能）

勝間田先生は、このようなICT環境をフルに生かした授業を展開している。その1つが反転授業²の導入で、予習動画を作成して生徒がいつでも観ることができるようにしている³。予習動画を前提とした反転授業を導入することで、①授業での講義が一切不要になり、授業で演習・探究の時間を十分に確保でき、かつ進度の遅れもほぼないこと、②生徒は動画を日々の予習・復習だけでなく、試験前の確認などでも活用できることを利点としてあげている。

3 世界恐慌について考える授業

1コマ50分間の構成は、おおよそ次のようになっていた。

- ①予習した内容の確認テスト（約5分）
- ②世界恐慌についての講義（約5分）
- ③問いに答えるグループワーク1（約28分）
- ④問いに答えるグループワーク2（約12分）

授業後にも見返すことができることは、学習者にとっても便利である。

- 3 勝間田先生自作のYouTubeチャンネル「勝トレTV日本史を学ぼう」（QRコード）を公開している。1コマの内容について、10分程度でまとめられている。



① 予習した内容の確認テスト (約5分)

最初に、予習動画の内容について、確認テストが行われた。授業開始5分前には勝間田先生は教室に入り、2分前に「時間になったらテストを配信しますよ」と予告していた。そして、授業開始時間になり、「はい、テストを始めてください」と伝え、生徒たちはPCに向かってテストを開始した。勝間田先生は、教室をぐるぐる回りながら様子を見ていた。なお、今回の授業内容は、「世界恐慌」である(【写真②】)。



【写真②】 授業開始時の風景

② 世界恐慌についての講義 (約5分)

予習した内容について、勝間田先生から簡単なレクチャーが行われた。まず、教科書(『私たちの歴史総合』歴総705)72ページを開くように指示があった。次に、1枚の写真をスクリーンに映し出し(【資料1】)、「なぜ列に並んでいるのか？考えてみてください」と伝えた。その次に、生徒たちに問いかけながら、写真についての解説が行われた。つまり、世界恐慌前に建てられた看板にはアメリカでは最高水準の生活ができることを物語っているが、世界恐慌後にその看板の前に列ができていて配給を受けているといったものである。



【資料1】 生徒に提示した写真^[4]

4 写真は、1937年にオハイオ川の氾濫の大洪水の際にケンタッキー州のルイビルが被害を受け、その時に政府が設置した食糧無料配給所の行列の場面である。世界恐慌と直接的

さらに、世界恐慌が起こった背景について、動画で使用されていたスライドを使って、勝間田先生による簡単なレクチャーが行われた。そして、全体の問いとしてMQ(メインクエスチョン)とそこにたどりつくためのヒントとなる3問のSQ(サブクエスチョン)が提示された。MQとSQは次の通りである。

MQ: 世界恐慌はなぜ世界に広がり、それに各国はどのように対応したのだろうか？

SQ: 1) アメリカで起こった恐慌が世界に波及した原因は何だろうか？

2) アメリカは恐慌を乗り切るためにどのような政策を実施したか。またその成果はどのようなものだったか？

3) ①イギリスはどのような地域をブロック経済圏に入れたのだろうか？

②ドイツの貿易は恐慌後どのように変化したか？またドイツは恐慌後どのような行動をとったか？

「いつものようにグループになって取り組んでください」と勝間田先生が生徒たちに伝えて、グループワークが始まった。

③ 問いに答えるグループワーク1 (約28分)

生徒たちは、机を動かしてグループをつくり、活動を開始した(【写真③】)。予習動画、配付資料、教科書、ネット検索などの情報をもとに、パソコンの画面にSQについて調べたこと、考えたことを入力していく。ときにグループのメンバーと対話はあるが、教室内は静かな雰囲気である。

生徒たちは、Google Classroom内に用意されているワークシートに入力していく。ワークシートのリンクを用いて生徒が入力した解答を教員用評価シートと紐づけているので、生徒がワークシートに記述した内容はリアルタイムで教員用評価シートに反映される。勝間田先生は、リアルタイムで入力さ

な関係を語るものではないが、看板の内容は当該期とのギャップを感じられる資料である。

れた内容や進捗状況が把握でき、必要な生徒への個別の声かけやフィードバック、必要に応じた全体での確認など、臨機応変に対応可能である。グループワーク中は、教室内をぐるぐる回りながら、生徒一人一人の様子を見たり対応したりしていた。

グループワーク開始 10 分後、勝間田先生から SQ 1 についての全体レクチャーが行われた。配付資料の見方の確認を中心に行い、明確な解答例を提示するわけではなかった。



【写真③】グループワークの様子

勝間田先生による全体レクチャー終了後、生徒たちは SQ に答える活動を再開した。生徒たちの集中力は途切れることなく、活動を進めていく。

そして、グループワーク開始 25 分後、勝間田先生から SQ 1・SQ 2 の解答について全体レクチャーが行われた。解答は、何名かの生徒たちが入力したものを紹介しつつ解説していた。

④ 問いに答えるグループワーク 2 (約 12 分)

勝間田先生による全体レクチャー終了後、生徒たちは SQ 3 に答える活動に入った。

終了 5 分前、勝間田先生から SQ 3 についての全体レクチャーが行われた。配付資料の見方の確認を中心に行い、ここでも明確な解答例を提示するわけ

ではなかった。さらに、SQ 3 は次回の内容につながることを指摘して、授業は定刻通り終了した。

4 授業デザインの特徴

本授業の特徴として、生徒個々へのリアルタイムでのフィードバックができていることと同時に、観点別評価ともそれがリンクしていることがあげられる（詳細は注 1 の文献参照）。

生徒が取り組むワークシートと教員用の評価シートは Google のスプレッドシートを使ったもので、勝間田先生が自作したものである。Google Classroom で生徒に配信したワークシート（【資料 2】）に生徒が解答を入力すると、教員用の評価シート（【資料 3】）にリアルタイムに反映されるようになっている。ワークシートに提示された MQ と SQ について、それぞれ生徒たちは文章を入力していく。

MQ と SQ は、観点別評価の観点ともリンクするようになっている。知識の整理を中心とした問いは「知識・技能」、資料と知識を組み合わせるなど解答に思考力や判断力を要する問いは「思考・判断」としてそれぞれ評価される。SQ の内容に応じて「知識・技能」「思考・判断」の各観点を事前に生徒用ワークシート上に記し、MQ は SQ の解答を組み合わせで考えていく問いであり「思考・判断」として設定されていることが生徒にわかるようにしている。

勝間田先生は、生徒が入力した文章を即時に確認して、リアルタイムで声かけなどの直接的なフィードバックをすることでつまづきに気づけるとともに、よいものにチェックを入れることで、その場で観点別評価も行っている。「知識・技能」に設定した課題は「知識・技能」の観点に、「思考・判断」に設定した課題は「思考・判断」の観点に、それぞれ自動で計算されていく。なお、生徒側も教員がチェックしたかどうかがわかるようになっており、出来ばえについて確認することが可能である。

【資料2】生徒用ワークシート（イメージ）

【資料3】教員用評価シート（イメージ）

5 授業の「価値」～1年を通じた変化～

授業展開にかかわる変化として、提示する問いについて変更していたことがあげられる。2023年時は、教科書に書かれている問いをほぼそのまま活用していたが、2024年時は、問いの立て方に工夫を加えていた。目の前の生徒たちの状況や思考方法を1年間見てきた中での変更であると、勝間田先生は言う。

< 2023年時の問い >

MQ:世界恐慌は、世界にどのような影響をおよぼしたのか？

SQ: 1) 第一次世界大戦後のアメリカを中心とした世界のお金の流れについて、資料を活用して説明してみよう。

2) 世界恐慌の影響をほとんど受けなかった国はどこだろうか？それはなぜだろうか？

3) 未曾有の経済的混乱のなかで、人と国家がとった行動はどのようなものだろうか？

4) ドイツは、どのような影響があり、どのような対応が国民に支持されたのだろうか？

5) 世界恐慌が日本の経済や社会に与えた影響はどのようなものだったのだろうか？

< 2024年時の問い >

MQ:世界恐慌はなぜ世界に広がり、それに各国はどのように対応したのだろうか？

SQ: 1) アメリカで起こった恐慌が世界に波及した原因は何だろうか？

2) アメリカは恐慌を乗り切るためにどのような政策を実施したか。またその成果はどのようなものだったか？

3) ①イギリスはどのような地域をブロック経済圏に入れたのだろうか？

②ドイツの貿易は恐慌後どのように変化したか？またドイツは恐慌後どのような行動をとったか？

一方、授業後に勝間田先生にインタビューをした際、2023年時はある程度の手ごたえを感じているようであったが、2024年時は少しモヤモヤしているように感じた。その背景には、目の前の生徒が違うことだけではなく、その1つとして、生成AIの活用方法があるのかもしれない。生成AIの活用について、学校全体で推進されているようで、歴史総合の授業でも活用しつつ、生成AIが提示する文章をそのまま入力するのではなく、自分なりに調査したり思考したりした内容も盛り込んだ形で文章を作成するように指導しているという（勝間田先生は生徒たちに「思考の跡を残すように」と常に伝えているという）。生成AIの活用を含めた歴史総合の授業のあり方については、引き続きさらなる探究がなされるものと思われる。

2022年度から始まった歴史総合の授業をどのように展開させていけばいいのか、勝間田先生は初年度から常に試行錯誤しながら授業づくりをしていることが、モヤモヤしている様子の中からうかがえた。

読者のみなさまは、授業デザインにおける生成AIの生かし方についてどのように考えますか？

◆訪問先データ

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
(私立・女子校)

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

HP: <https://jhs.swu.ac.jp/>



●最高裁違憲判断，戸籍上の性別変更における手術要件

公共 705：p.110 政経 704：p.74

性同一性障害の人が戸籍上の性別を変更するのに、生殖能力をなくす手術を事実上の要件とした性同一性障害特例法の規定が憲法に反するかどうかが争われた家事審判で、最高裁大法廷は2023年10月25日、規定を「違憲・無効」とする決定を出した。最高裁は2019年に生殖不能要件を「合憲」としたが、この判例は変更された。法務省は特例法の改正を検討する。

●最高裁違憲判断，旧優生保護法に基づく不妊手術強制

公共 705:p.110 公共 706:p.40 政経 704:p.64, p.74

障がいなどを理由に不妊手術を強制された人たちが国を訴えた裁判の判決で、2024年7月3日、最高裁判所大法廷は、旧優生保護法は憲法違反だとする判断を下した。「国は長期間にわたり障害がある人などを差別し、重大な犠牲を求める施策を実施してきた。責任は極めて重大だ」と指摘して、国に賠償を命じた。1996年まで48年間続いた旧優生保護法は精神障がいや知的障がいなどを理由にした不妊手術を認め、手術を受けた人はおよそ2万5000人に上るとされる。

●袴田巖さん，無罪確定

公共 705:p.76, p.113 公共 706:p.46 政経 704:p.38

1966年、みそ製造会社専務の一家4人が殺害された事件で、逮捕・起訴された従業員の袴田さんは、初公判以降全面的に否認したが、1968年静岡地裁は死刑判決を下した。1980年に最高裁で上告棄却となり死刑が確定したが、袴田さんは再審請求を続けた。2023年に東京高裁が再審開始を決定し、静岡地裁は9月26日に無罪の判決を言い渡した。2025年3月静岡地裁は、47年7か月にわたる身柄拘束への刑事補償として、2億1700万円余りを交付する決定を出した。

●政治資金規正法改正 公共 706：p.76 政経 704：p.81

自民党派閥の政治資金パーティーで、議員がパーティー券の収入の一部を政治資金収支報告書に記載せず、裏金を作って政治活動などに使っていたという疑いが指摘された。これを受けて改正政治資金規正法が、2024年6月19日の参院本会議で可決、成立。政治資金収支報告書の不記載などで議員に連帯責任を問う仕組みや、政治資金パーティー券購入者の公開基準額を20万円超から5万円超に引き下げることなどを盛り込んだ。

●防衛関係予算をGDP比2%へ

公共 705：p.140 公共 706：p.83, p.85

日本の防衛費は、1976年に対国民総生産（GNP）比で1%を「超えない」と閣議決定された。この決定は中曽根内閣が87年に撤廃したものの、その後も1%の枠内を維持する傾向が続いた。87年以降で1%を超えたのは、2010年度などの4回にとどまる。しかし、2022年の閣議決定で、安全保障環境の変化に対応するため「5年以内に防衛力を抜本的に強化する」として、2027年度の防衛関係予算をGDP比2%に引き上げることとした。首相が防衛費の具体的な水準を明言するのは初めて。防衛省単体の予算を増額するほか、海上保安庁など、他省庁の防衛に有益な経費を含める。

●被団協がノーベル平和賞を受賞

公共 705：p.126 公共 706：p.135 政経 704：p.197

被団協（日本原水爆被害者団体協議会）は、米国が1945年8月に広島と長崎に投下した原爆の被害者による唯一の全国組織で、36都道府県にある地方組織で構成される。1956年8月10日に長崎市であった第2回原水爆禁止世界大会で結成された。「原水爆禁止運動の促進」「原水爆犠牲者の国家補償」などを掲げ、被爆体験の継承や被爆者健康手帳の申請支援も続けている。「核兵器の使用は道徳的に容認できないという国際規範の確立に多大な貢献をした」として、2024年のノーベル平和賞を受賞。日本のノーベル平和賞は、非核三原則を表明し、NPTに署名をした佐藤栄作元総理大臣が1974年に受賞して以来、50年ぶり。

●BRICSの拡大

公共 705:p.181 公共 706:p.140 政経 704:p.224, p.227

BRICSは2024年10月22～24日、ロシア西部のカザンで第16回首脳会議を開催し、36か国が参加。原加盟国の5か国（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ共和国）に加え、2024年1月から枠組みに加わった4か国（アラブ首長国連邦、イラン、エチオピア、エジプト）を含む拡大BRICSとして、初めての首脳会談開催となった。加盟国に次ぐ立場にあたる準加盟国に相当する「パートナー国」を創設し、13か国（インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア、ウズベキスタン、カザフスタン、ベラルーシ、トルコ、アルジェリア、ナイジェリア、ウガンダ、ボリビア、キューバ）が候補と複数のメディアで報じられた。BRICS加盟国の人口は合計35億人と世界の約45%を占め、経済規模は合計28兆ドル以上となり、世界経済の約28%に相当する。